

あ と が き

編集委員長 南 沢 享

『東京慈恵会医科大学教育・研究年報 第38号(2018年度版(平成30年度版))』をお届けいたします。原稿の執筆ならびに業績データの作成にご尽力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

本年報では2018年度における学事関係の動きや各講座・研究施設の教育・研究活動の概要を俯瞰することができます。本年報は本学の教育・研究の現状を学外に向けて発信するとともに、学内での相互理解と協働の機会になることを目指しています。是非とも本年報を大いに活用していただければ幸いです。また、教育・研究年報編集委員会が強化されました。具体的には2019年9月から教育担当副学長、研究担当副学長、Jikeikai Medical Journal 編集委員会委員長に委員としてご参加頂き、電子版の発行などを見据え、本年報の今後のあり方について議論を深めてゆきたいと思っております。本年報への皆様からの忌憚ないご意見をお寄せ頂きますよう、お願い申し上げます。

さて、2018年度を振り返ると、『教育・研究年報』の編集委員であり、何より学校法人慈恵大学の専務理事として大学を支えてきて頂いた高木敬三先生が、2018年7月29日にご逝去されたことが第一に大きな出来事として挙げられます。高木敬三先生の

ご遺志を継いで、『教育・研究年報』及び学術情報センターの更なる発展に努めて参りたいと改めて思っています。また、大学は学祖高木兼寛先生との縁が深い鹿児島大学医学部と包括的連携協定を結びました。英国医学に源流をおくのは日本では、この両大学のみであり、教育・研究・診療の面で一層の連携が図られることは大変意義深いと思っております。

このあとがきを書いている現在、新外来棟の概観が明らかになっており、2020年1月の開院にむけて、着々と準備が進められております。東京オリンピックの開催も1年を切りました。ラグビーワールドカップも大変盛り上がりました。本学の全ての関係者が心をひとつにして、がっちりスクラムを組んで、診療、教育、研究を一層活気あるものにしてゆきましょう。

最後に本年報作成にあたり、膨大な編集作業に従事していただいた学術情報センターの職員各位に感謝申し上げます。

2019年11月1日

編集委員長：南沢 享

編集委員：谷口郁夫、柳澤裕之、大橋十也、
吉村道博、相曾好司郎、北川正路